



## ホイアン市民のインセンティブとは？

沖縄リサイクル運動市民の会  
国際協力コーディネーター 串間 武志

ベトナムの中部、「古い町並み」の世界遺産を有し、市域のチャム島がユネスコの「自然保護区」にも認定されているホイアン市は、年間 100 万人の観光客が訪れる観光都市です。（図 1 参照。）

わたしたちはこのホイアン市において、2008 年から 2010 年まで第一フェーズとなる「3R 推進の人材育成」を目的としたプロジェクトを行ってきました。第一フェーズでは、ホイアン市が那覇市をモデルとした「ホイアン市廃棄物処理計画」を策定し、「市民との勉強会」、「ノービニール袋運動」、「家庭ごみコンポスト実験」、「環境教育プログラム推進」を試行するなどの成果が確認されました。

第一フェーズの終了時評価で、計画により実効性をもたせるためには、ホイアン市民自らの参画を促進するために市民リーダーを育てていくことが重要であると認識されました。

そこで、ホイアン市のごみの現状と課題について明らかにし、明らかになった改善課題と解決策の提案をまとめた上で、ごみ減量へのホイアン市民の参加及びその行動変容を促すこと、すなわち「市民参加」による「ごみ減量計画」を策定することを目的に、2012 年からは第二フェーズとして「ホイアン・那覇モデルのごみ減量プロ

ジェクト」を 3 年間の予定で実施しています。（図 2 参照。）

ホイアン市の廃棄物管理の課題は、ごみ排出量の削減です。ごみを減らすために那覇市が行ってきた経験をホイアン市に伝えたいと思います。那覇市のごみ減量のキーワードは「市民」の参加であり、ホイアン市においてこれからの段階である市民参加による施策展開を支援するための計画を策定していきます。

本プロジェクトのターゲットグループは、ホイアン市のまちづくりを担うホイアン市人民委員会、施策を担当するホイアン市天然資源環境局、ごみ収集を担当する公共工事公社、リサイクルでごみの減量に寄与するリサイクル関係者、市民からなる市民組織、事業ごみの対象となる排出事業者です。中心となるカウンターパートは、ホイアン市人民委員会、ホイアン市天然資源環境局、公共工事公社の官セクターで、市民参加の計画策定段階においてリサイクル関係者、市民組織、排出事業者などを巻き込んだ活動を予定しています。

本年 6 月には、ホイアンのごみを知るために 500 世帯を対象に 1 週間の排出したごみを記録してもらう「ごみ家計簿」と、市街地、郊外、農村、市場など 7 カ所からのごみを 15 種類程度に手選別する「ごみ組成調査」を行いました。まだ調査結果が整っていないため、分析は

図 1 ベトナム社会主義共和国 ホイアン市の位置図

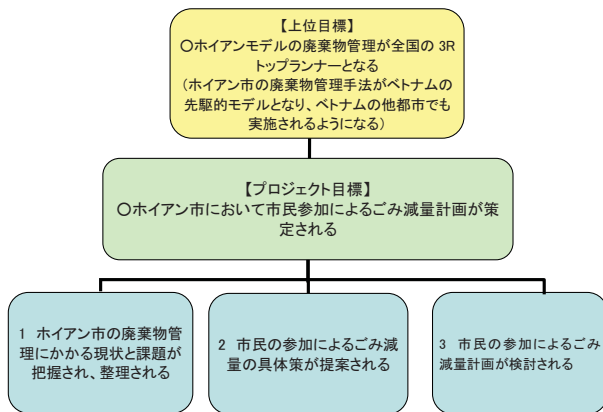


これからですが、かなり良い精度の結果が出ると期待しています。(図3参照。)

さて、ホイアン市は、「2030年にはベトナム随一の環境都市を目指す」旨の「エコ・シティ」実現に向け、“いかに環境を守りながら発展していくか”という使命に挑戦しています。

誰もが納得できる素晴らしい使命です。では、いったい誰がこの挑戦を支えているのでしょうか。わたしの実体験からほんの数例ですが、大きな使命に挑戦する人々を紹介します。

図2 プロジェクト目標及び成果



○スー市議会議長 ～トップのリーダーシップ

2009年にスー市議会議長と翁長那覇市長との衛星テレビによる「環境」についての会談が実現しました。この会談ではごみに関する市民の理解や環境保全の重要性をお互いに共有することができました。両市のトップが「エコ・シティ」の強力な推進者×支援者になるというインパクトが発現しています。



翁長那覇市長とスー市議会議長

○ヤン市長 ～包容力でエコ・シティを実現

温和で調整型の市長で、会議においても市民の意見を大切に尊重します。当会の活動にも全面的な協力を惜みず、「エコ・シティ」を全力で推進しています。

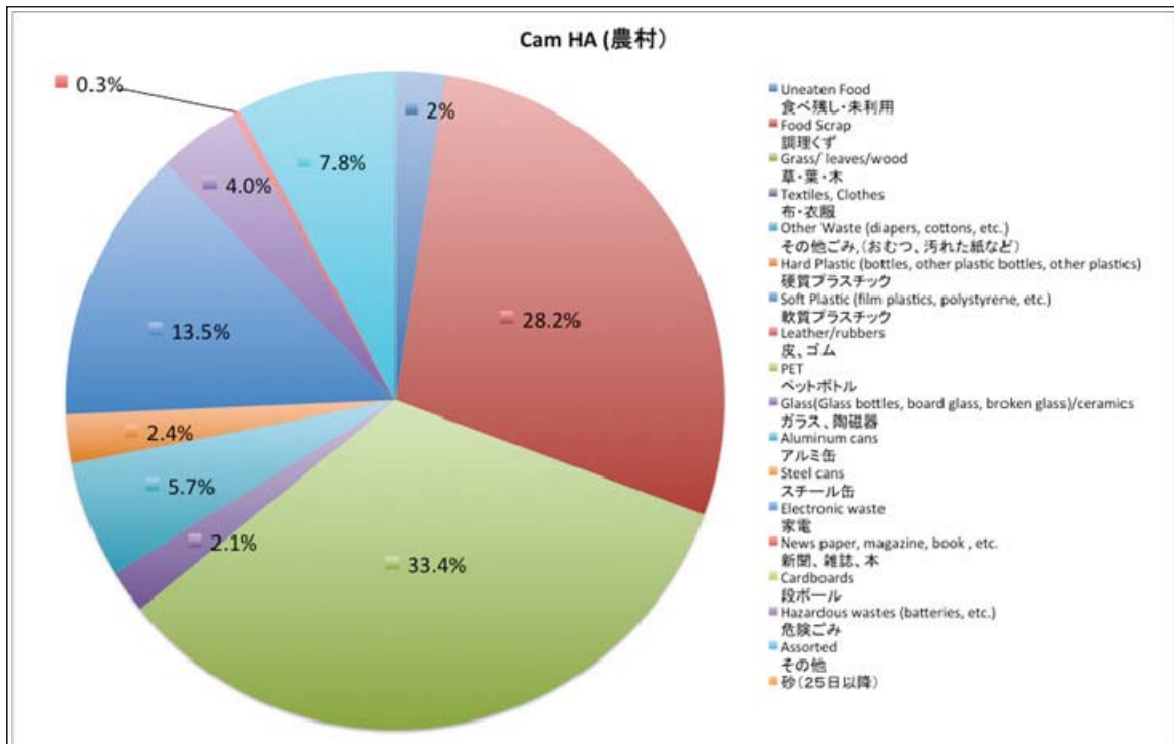


○ヒエン天然資源環境局長 ～行動する Mr.エコ・シティ

ホイアン市の「環境」を引っ張る第一人者です。行政の立場から市民・企業と対話を続けています。施策を実現させる行動力、調整力に長けており、名実ともに「Mr.エコ・シティ」であるといえます。



図3 農村地域のごみ組成結果(約6割が有機物)



○クイ公共工事公社社長 ～ホイアンが美しいのはこの人のおかげ

人なつこく、面倒見がよい方で、且つ約束は必ず守ります。ホイアン市のごみ収集をきめ細やかに改善し、クリーンなまちづくりに貢献しています。



○バン婦人会長 ～女性の力をエコ・シティに

女性の立場からの「エコ・シティ」を常に考えて行動しています。リサイクル活動やグリーン・ベト・クラブなど、ごみを扱う機会の多い婦人会だからできる活動を活発に行っています。



○キエット人民審議会事務理事 ～静かなる闘志

物静かな方ですが、「我々がやらなければならない」という強い意思を秘めており、当会のごみ組成調査にも積極的に参加してきました。



中央がキエットさん

○ティン・チャム島海洋保護区マネージャー  
～ホイアンの宝

アイデア豊富で婦人会と連携したリサイクル活動や大学生を巻き込んだ家庭での分別啓発、チャム島でのバ



左端がティンさん

イオガスの導入など様々なプロジェクトを立ち上げ、国際機関や NGO とも連携して実践してきました。市民からの信望も厚く誰からも頼りにされる存在です。

○ホイアン市民 ～進んで実践エコ・シティ

私たちの活動で「ごみ家計簿」を家庭にお願いしたことを先に紹介しましたが、毎日ごみを 11 種類ぐらいに分け、重さを量るという、日本でも面倒と思われるようなことを「住民説明会」でお願いしました。

説明会の後、地域を回って 20 件程度のお宅に「ごみ家計簿」記録状況の確認を行ったのですが、なんとすべての家庭がきちんと分別し、重さを量り、記録していたのです。ホイアン市民の理解力の高さと、協力する姿勢に頭が下がりました。またほとんどすべての人がこうした取り組みはホイアンの環境のために良いことと発言しており、環境意識の高さも確認することができました。

このようにこれまで紹介してきた人々がホイアン市で活動しており、ホイアン市の「エコ・シティ」実現のための“役者はそろった”といえます。

市民の行動変容のためにはインセンティブが必要とよく言われます。私は、ごみが減ることが市民のインセンティブになると考えてきました。

しかしながら、今回の経験を通じ、これはもしかすると目に見えるインセンティブではなく、人が人を巻き込んで動いていることが影響を与えインセンティブになっているのではないかと発見しました。

ホイアン市から、“人が動く影響は大きく”、市民のインセンティブにもなることを学びました。

